

と私は、まる1週間考えに考えた。どうやってわれわれの「クッデル」を驚かそうかと考えたのだ。結局は、このプランに関わっていたチームの会合の際に、フォーラントが彼に鞍馬形の文鎮を差上げることを思いついた。このすばらしい考えには、どの人も賛成だった。製作はヴォルター二等海兵が引き受け、その豪華な品物を誕生日までに引渡してくれた。仲間の写真も、欠けている第1チームのメンバーを含めてクレメンスによって仕上げられ、金曜日に準備が進められると、夕方にはパウル・ヴォルフによる通し稽古が行われ、そこでいくつかの欠陥も取り除かれた。土曜日の朝には、役員がチームを代表してお祝いを届けた。一人は大きな花束を持ち、一人は絵を持ち、さらにもう一人は厳かな顔をして、朝早くに緑の枝で飾られていた彼の部屋に向かった。祝辞は次のようなものだった。

ムックス： 本日は本当におめでとう。仲間からこの花束をお送りします。

クッデル： 顔を輝かせて礼を言う。

ルフ： あなたのことを大事に思っている印として、この絵を差し上げます。

クッデル： 顔を輝かせ、礼を言う。

クレメンス： 心から誕生日をお祝いします。ここでの最後の誕生日となりますように。

クッデル： もはや何も聞いておらず、絵を持ってインディアンの踊りをする。

クッデルの部屋仲間がムックスに： 今晚の許可証を持っているの？

ムックス： 許可証？ クッデルに向かって言う：許可証は？

(けれどクッデルはまるで気づかない)

部屋仲間： あんたたちは、高木(大尉)の所に行ったのかと思って。

ムックス(びっくりして)： 高木と何の関係があるの？

部屋仲間： いや、今晚のためには許可証がいるんだろう？

クッデル：(ムックスをじっと見つめるが。まだ気づかない)

われわれは帰ろうとした。

部屋仲間：非常に困ったような顔をしている。

ムックス：では、さようなら。今日はうれしいことだけあって、何の心配も起きませんように。

部屋仲間：あんたは本当に許可証をもらってないの？

ムックス：(ひとり言で、クッデルにそのうち気づいてもらうためだよ)

うん、たぶん今晚は自分たちで招待をしないとね。

クッデル：(今やっと悟って) いやいや、とんでもない。もちろん来てくれないと。みんな

来てくれよ。もう何日もかけて準備したんだから。

ムックス：(すっかり満足して)ということは、君は招待してくれるんだね。

そのかわり、時間はきちんと守るよ。

そうして、われわれは満足して別れた。

夕方仲間の一部は本部に集まり、一部は行きつけの飲み屋のヴァルンリッヒに集まった。それから2つのグループの集合場所は東の洗面洗濯場だった。そこから祝いの行列は祝いの席に向かった。その夕べがどのような内容であったかは、クレメンスが制作したプログラムとそれに添えられた冊子が示しているとおりである。お祝いの最高の瞬間は、プログラムナンバー1と2の間にある鞍馬の開封と贈呈だった。そのほかはプログラムどおりに進んでいった。私もいくつか驚かされることがあって、この夕べのお祝いのための私の準備作業をルフが詩で表現してくれたし、クレメンスも彼の詩的な発露を私に投げかけてくれた。そのほか、クッデルが驚くべき冷静さで、彼に向けられたすべての詩に詩の形で応えた南独風戯れ歌のこと

も挙げておかなければならない。

すべての参加者は、この晩をまだ長いこと思い出し続けることだろう。この晩は、どうすればみずからの暮らしからまだいくつかの明るい面を勝ち取ることができるかを証明してくれたばかりでなく、友情と古き良き体操精神の証(あか)しでもあったのだ。



われわれの体操仲間オスカーの  
誕生日プログラム

第一部

1. お祝いの歌
2. 体操選手マーチ
3. お祝いの言葉
4. 歌(大声で歌おう)
5. ワルツ

第二部

6. 詩
7. 歌(体操選手それは...)
8. 明るくて真面目な詩
10. 歌(どうしてそうすべきなのか)
11. 南独風戯れ歌
12. ????????

## お祝いの歌

C. フェルヒネロウスキー作詞

「明るく歌おう」の旋律で歌う

1) いざ、選手たちよ、声高く歌おう

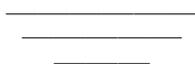
こぞって楽しい歌を、  
喜びに満ちてこの日を祝おう、  
昔からの体操選手のやり方で。

2) 困難な時代の中での雷光として

この日を歓迎したい、  
この日は苦悩を払いのけ、  
明るさを捧げる。

3) だから誕生日の人に「万歳三唱」を、

もっと末永くお元気で！  
今日はとても楽しい、  
だからこそあなたに感謝したい。



フェルヒネロウスキーの作詩・朗読

グート・ハイル。この日に生まれた君に  
体操仲間からお祝いの声が聞こえる。  
第1チームは大急ぎでやってきた  
とても朝早い時間に。

チームはあなたに花束を贈り  
それに一つの願いを付け加えた。  
あなたがふたたび家に帰り  
楽しく自由な生活を取り戻すことを。

この小さな鞍馬は君に思い出させる、  
板東での体操の日々を。  
われわれがまるで兄弟のように一体だった日々を、  
われわれの境遇を忘れさせてくれた日々を。

---

#### ムックスの作詩・朗読

われわれが今日この家に集まったとき、  
いつもの風のうなりはなかった！  
ここで君の誕生祝いのために、  
君へ仲間のお祝いを持って行こうと。

鉄棒・平行棒・鞍馬は  
いつも君の身体を火照らせた。  
けれども3番目のやつでは  
君はまだ頻繁に角にぶつけている。

まもなく仲間はそのことを知り、  
そのため仲間は誕生祝いに

この小さな鞍馬を選んだ、  
この分野でも君が名手になるようにと。

---

フェルヒネロウスキーおよびムックスの作詩・ルフ朗読

第1チームの贈り物をどうぞ、  
そして戦争が終わってもこのチームのことを  
思い出してくれ。  
時が変わっても熱心に体操をしてくれ  
君に自由の星がきらめいた時に。

われわれの時代のモットーを思い出してくれ、  
一つにまとまったときに生まれた言葉だ。  
受け継いできた体操精神を高く掲げよう、  
このモットーがいつもそれをほめ讃えるように：

喜びをもって体操せよ、  
懸命に体操せよ、  
すべての悩みを忘れよ  
体操サークルの中で！

---

## 真面目で陽気な啓示

M. と F. 作

ムックス：

君たち、立上がりこちらに集れ  
 わがクッデル・マイの誕生日を祝おう  
 各人が一言述べてもらうが、  
 まずは一番背の低い者に始めてもらおう。

ルフ：

友にして体操人、クッデル君よ  
 君は今でもしよっちゅう僕を心配させる  
 君は水平姿勢はうまくできるが  
 両脚交叉となるとからきしだめ、  
 だからあの鞍馬で練習を続ける  
 そうしてくれたら僕にとって名誉なことだから。

ムックス：

女たらしのクッデル君  
 君を見てるとしばしばよれよれの犬を連想する  
 体操器具に向うとき舌をだらりと伸せば  
 僕のお喋りは止ってしまう。

フォラント：

クッデル君、君の横飛びは  
 いつも素早いのだが  
 身体をあのよう小さく振るとき  
 僕が転向するのにどう身体を回すのか思い出せ

フェルヒネロウスキー：

競歩大会から帰ってびっくり  
君が食卓についている  
頼む、うまいワインを注いでくれ  
本当に脚をやっちまったのか？

オイヒラー：

君はドイツの櫛の木のようになれば  
最高のものに到達できるだろう  
常に心変りすることなく体操に打込み  
心新たに練習に勤しめ

フレンダー：

時代が変わろうとも  
ふるさとの国で  
時は過ぎ去ることはない  
それをわれら体操人が保証しよう

ヴォルフ：

この前君はずいぶん物語ってくれた  
僕にはどんな練習が足りていないかと  
しかし分ってびっくりしたことは  
君も練習というものが良く分っていないということ

フェッター：

ねえクッデル君  
君は何度か体操をずる休みしたよな  
それはホッケーのせいなのか  
それともまた脚がおかしくなったのか？

クナープ：

君たちのこの前のスポーツの夕べのために  
 僕は体操をふたたび大切にし  
 大いに精を出して頑張ろうと思う  
 クッデル、君もそれに異論はないよね

ベーフィング：

僕は何もぶっ潰したことはない  
 くそっ、鞍馬は胃にこたえる  
 だから君のことは理解できる  
 最近ほとんど君を見かけなかったことを

パウアー：

君はさんざんこき下ろされてたが、  
 思うにずいぶんと嘘がある  
 また多くのことが君のことになっていて  
 自分でそのことをお笑いぐさにしている

ムックス：

さあ君たち、お喋りはおしまいにして  
 杯を手にとろう  
 誕生日を迎えた者のために飲もう  
 彼が我らのことを穏やかに思ってくれるように

-----

## 南独風戯れ歌

クレメンス・フェルヒネロウスキとヴァルター・ムックス

我ら二人詩人ではないが、今日は君たちを  
こんな歌で喜ばせようと努力してみた。

クッデルとモーリッツは犬を一匹飼っている  
そのことを君たちみんなに教えておこう。

二人はそれぞれの持分が分るように  
犬の背中に一本線を引いた

クッデルはウサギにも精通している  
いつか空腹を満たすものになるからだ

彼は菜園も作っているが  
それはサラダ菜をウサギに詰めるから

消化がつつがなく進むように  
急いでホッケークラブに行く

しかしクッデルはホッケーだけではもの足らず  
サッカーとシュラークバルもしなければならない。

そうやって昼よれよれになって帰ると  
当然体操する余力はない

だからよく覚えておけ、スポーツの天才の君が  
これから体操の場になくても寂しくなんか思わない

彼はウェイトトレーニングでは見事だが  
石投げだけは力を使い切れていない

彼は競歩大会にエントリーしなかったが  
そのことを誰も悪く言わないし、気を悪くする者もない。

彼を褒めるべく言うておくが  
彼の場合ストップウォッチがおかしくなったことは  
一度もない

歌い手としてもトライはしたのだが  
正しい音を取れたことはめったにない

この戯れ歌を作った二人は  
ときどきに頭が割れそうになった

喉が渇き、ほとんど歌えないぐらいだ  
だが誕生日の子への乾杯、それは何とがやれる。

-----

体操の父ヤーンの「板東体操クラブ」訪問  
フェルヒネロウスキ作および朗読

先日、収容所の門を  
喪章を付けた老人が叩いた。  
髭は真っ白で長い。  
しかし声はしっかりとしていた。

「なんですか？」と衛兵は問う。  
「この極東の地で何をしているのか？  
嵐が吹くなか、どうしてここへ来た？  
さあ老人よ、言え、早く。

わしははるか遠いドイツの地から  
この収容所を見るためにやって来た。  
囚われの境遇であっても  
生きる意欲と力が失せていないか見たいのじゃよ。

衛兵は不思議そうに彼を見つめたが  
短くこう言った。「さあ老人よ、  
前に立って歩くからついて来い、  
お前を本部まで連れて行ってやる。

二人が道を歩いて行くと  
突然体操選手達の歌声が響いた。

それは力強くどこかの建物から聞えてきて  
敵の地に吹きすさぶ嵐のようであった。

喜びに包まれて老人は立ち止り  
涙が真っ白な髭を流れ落ちた。  
目は喜びと幸せに輝き  
その眼差しは誇り高い満足を表していた。

若者のような軽やかに足を速め  
瞬く間に建物に着いた。  
ドアを開けるやいなや  
「グートハイル」という歓声が彼を迎えた。

「父ヤーンだ！」と彼に向って声があがる。  
「グートハイル！父ヤーン。祝福をもたらしていただける  
あなたの生涯の仕事、体操は永遠に続くものです。  
それをわれわれ捕虜を見てお分りいただけますね。

われわれはもう5年も自由を奪われています。  
それでもなおいつでも頭を上げることができます。  
なぜなら体操がわれわれを男にしたのですから、  
そして辛いときに楽しい時間をもたらしてくれたのです」

これに応じて父ヤーンは力強く  
「感謝する、体操人たちよ。これはわしへの褒美じゃな。

君たちが困窮と辛い時代をものともせず成し遂げたこと、  
私の生涯の仕事を広く日本に植付けたことは。

その最後のことばが言い終るや  
霧のようなものが立ちこめ — 父ヤーンはいなくなった。  
しかし木霊のように声が響いてきた。  
「鉄の意志のみがわれわれに幸せをもたらすのじゃ！」

-----

### 詩人ムックス

1. あの青いメガネをした奴はいったい誰なんだ？  
ある日のこと、背後からひそやかな声が聞えてきた。  
あれはムックスだよ、分らないかい？  
奴はまた新しい詩を書こうとしているのだ  
青いメガネにオハヨウハット、それが  
まさにぴったりはまっている。
  
2. 詩を書くのはとても難しいらしい  
そう自分自身ひとり思っていた。  
彼は朝も晩も何日もかけ  
詩作に費やしていたから。  
ほら、見ろよ、とんがり髭を撫でてるだろ。  
新しい顔が生まれたんだよ。

ムックス印の葉巻だけ、くそ忌々しい顔だ。

僕が詩作するとき、チュナイスは一体どこにいる？

3. 僕たちはそれからちょっと近づいて

彼の仕事ぶりを近くから眺めた。

ムックス君、と重々しくC 1. が言う

韻とリズムがまた間違ってるぞ。

しかし彼は動じず、

指を鼻に当てただけであった。

真面目な暗い口調でこう言った。

「君たち、知っているよね、

一週間後の5月3日

クッデル君が誕生日なのを」

4. その日の夕刻、クラブの酒場。

事はまさに致命的なものとなった

茶の入ったカップの前で手には本を持ち、

ムックスが立っている様子を、想像できるだろう？

クッデル君。

さんざん考えたあげく、良いお茶を飲みながら

フォラントはやっと正解を見つけた。

鞍馬だ、と彼は熱っぽく叫ぶ、

あれならクッデルは名人になれる

おいフォラント、と彼は言う

そのすばらしい思いつきはどうやって手に入れたのだ？

さあ、若者達よ、これ以上何を決めることがある？  
その思いつきにカップのお茶を注ごうではないか。

ヘルマン・ルフ

1919年5月12日

われわれ体操仲間オスカー・マイの誕生日が過ぎた。何日も、いや何週間もずっとこの日を喜びで記念すべく新たなきっかけをはらんでいた。実際、その後何日かにわたって行われた執行部の議論はすべてこういう雰囲気のもとで行われたのであり、4月13日に提案された体操競技会の開催が話合われたのである。それは12種競技であって、上級クラスでは

助走付石投げ、

踏切り板なしの高跳び

棒幅跳び

鉄棒と平行棒で3種の演技

鞍馬で2種の演技

鞍馬の力技の代替として棒演技

下級クラスでは

助走付砲丸投げ

踏切り板つき幅跳

踏切り板なし高跳

鉄棒と平行棒でそれぞれ3種の演技

鞍馬で2種の演技

鞍馬で跳躍

プリンツ上等兵曹殿指導のシニアクラスは独自性を保った形で競技会に参加した。このクラスの演技は